

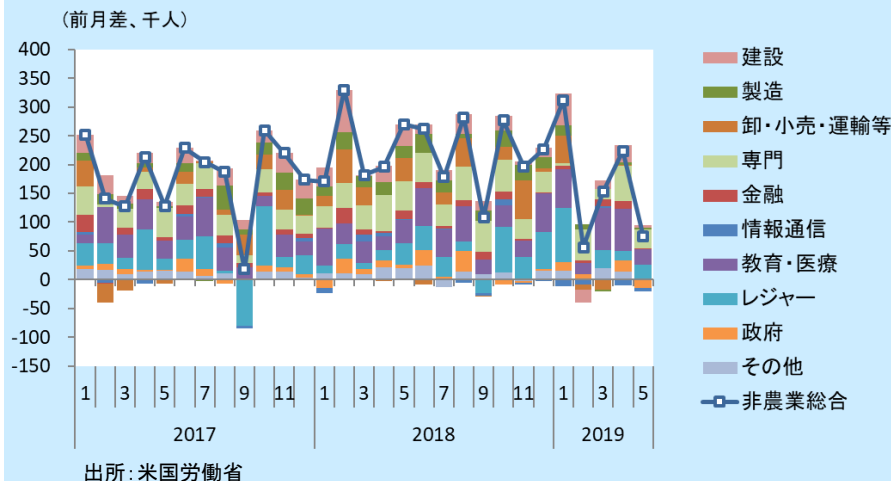
米国：雇用統計（2019年5月）

— 雇用者数の伸びが減速、小売業は4ヶ月連続の減少 —

MRI Daily Economic Points

June 10, 2019

図表1 非農業部門雇用者数



評価ポイント

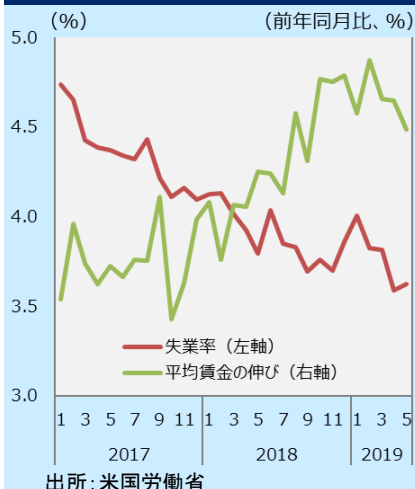
今回の結果

- 19年5月の非農業部門雇用者数は、前月差+7.5万人増と前月(同+22.5万人増)から伸びが大きく減速した。
- 内訳をみると、専門ビジネス(同+3.3万人)や教育・医療(同+2.7万人)、レジャー(同+2.6万人)で雇用者数の伸びが大幅に低下。他にも、建設業(同+0.4万人)や製造業(同+0.3万人)などでも雇用者数が増加したが、その伸びはわずかに留まった。小売業(▲0.8万人)は4ヶ月連続の減少だった。
- 5月の失業率(3.6%)と労働参加率(62.8%)は、前月から変化なし。
- 時間当たり平均賃金は、前年比+3.1%と前月(同+3.2%)からわずかに減速した。

基調判断と今後の流れ

- 低い失業率と堅調な賃金の伸びが引き続き観測された一方で(図表2)、雇用者数の伸びは減速傾向にある。背景には、労働市場の逼迫などがあるとみられる。5日公表の地区連銀経済報告(ページブック)では、企業による労働力の確保が難しくなっていることを複数の地区連銀が報告している。
- 先行きも、労働者数の伸びは減速傾向が続くと見込む。ただし、米国が後述の第4弾制裁を実行した場合、その角度は急なものになることが予想される。
- 下振れリスクは、米中貿易摩擦の一段の激化である。米政権は現在、発動済みの対中制裁に含まれない残りの中国製品3250億ドル相当への関税引上げ(第4弾制裁)を検討している。その対象には消費財が多く含まれるため、この制裁が実行された場合には、全米労働者数の約10%を占める小売業を中心に悪影響が及ぶ。
- 今回の雇用統計発表を受けて、今後のFOMC(直近では6月18~19日開催予定)の決定が注目される。今回発表された雇用統計の数値が市場予想を大きく下回ったことで、市場ではFRBが利下げを行うとの観測が強まり(図表3)、発表当日のダウ平均株価は上昇した。

図表2 失業率と賃金の伸び



図表3 7月FOMCでの政策金利予想

